

2021
秀作

第19回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

ビジネスにおいて大事なものの

千葉県・東邦大学付属東邦高等学校 2年 中野 莉緒

「千葉県の名産品は？」と聞かれたら多くの人が落花生を挙げるだろう。他の都道府県にも名産品の食べ物がたくさんある。しかし、私達は色々な地域の名産品を「食べているだけ」になっている。

私は二人の友達と一緒に、落花生を「食べるだけ」の名産品にしてはもったいないと考え、落花生の殻を使用した商品のビジネスプランを考えて高校生ビジネスプラングランプリに応募することにした。

ビジネスプランを考えるうえで意識したのは人々の役に立ちながら環境にもやさしいエコ商品をつくることだ。そこで、捨てられてしまう落花生の殻に除湿効果があることが実験により分かったため、「落花生の殻除湿器」をつくることにした。商品案を考えていくうちに行き詰まったのは人々の目に留まるようにするという部分だ。落花生の殻を入れ物に入れるだけでは商品としての魅力が無いし、プラスチックを使い過ぎた商品にするとエコではなくなってしまう。「見た目と機能の良さ」と「環境にやさしい」という二つの魅力が良いバランスでつり合っていないと商品は買ってもらえない。最近の経済を回しているであろうエコ商品がどれだけ考えてつくられてきたのかを痛感した。

私達が考えた商品案は、「再利用された木や和紙を使った提灯風除湿器」だ。和紙や有機栽培綿などの天然素材を使用したTシャツのサブスクリプションサービスを行っている会社とコンタクトを取り、和紙などの材料を提供してもらえることになった。私達は今まで自分達で商品をつくって販売することを考えていたが、この会社から自分達のプロジェクトへの賛同を得られたことで、個人で販売するよりもコンセプトが明確に伝わり、より大規模な商品販売の仕方を考えられるようになった。そして、この会社はサブスクリプションサービスを売りにしているので、「落花生の殻を入れる入れ物をレンタルという形で販売してはどうか」という提案をいただいた。この考えは私達だけでは絶対に出

てこなかったもので、とても新鮮でビジネスプランをつくる際の視野が広がった。レンタルサービスという形にすれば使い古された商品をリサイクルすることができるのに加え、販売側のサステイナブルで環境にやさしい商品を提供したいという意思が多くの人に伝わるだろう。この会社とのやり取りでたくさんのことを得られたが、一番嬉しかったのは一般の高校生の意見に耳を傾けてくれたことだ。一つの会社に自分達の考えが伝わり、賛同してもらえたことで自信をつけることができた。もし自分が将来、商品開発やプロジェクトの立ち上げに関わることになったら、この会社のように柔軟な考え、小さな声も聞き逃さないような広い視野を持って仕事をしたいと思った。

次に直面する問題は、やはり金銭面の部分だ。商品を大量につくるには材料費だけでなく、人件費や設備費、広告宣伝費などが必要になる。そして、商品の販売にかかる費用よりも多くの利益を生み出さなければ会社は成り立たなくなってしまう。想像以上に収支計画は細かく正確に考えなければいけないことに驚いた。しかも、商品を販売するのは1年間だけではないので、何年後かの未来を見据えて売上高や仕入れ値などの変化も常に考えて収支計画を設定しなければならない。このように、日々景気などが変化していく中で考えなければならないのが収支計画だが、その中でも難しいと感じるのが人件費だ。ただ人間を雇えばよいのではない。適材適所と言われるように、専門的な作業を行う場合は資格や高度な技術を持った人を雇う必要がある。しかし、優秀な人材を多く雇えば安全性や作業の効率は上がるが、人件費は高くなってしまう。お金の面と安全性や効率の面のバランスをとるのに失敗してしまうと、利益が赤字になったり、会社の信用が落ちる原因になってしまう。このように、価格設定が難しい人件費だが、私は一番工夫ができるのも人件費だと思う。例えば、高齢者や障がい者などの働き口が少なく困っている人達に単純作業をやらせれば、会社として社会貢献ができるうえに、会社や商品のことを知ってもらいきっかけになるかもしれない。工夫する手立ては人件費以外にもたくさんあるはずだ。数え切れないほどの工夫をして、商品や事業について考え続けてきた会社だけが今の社会で生き残っているのだろう。

私はビジネスプランの作成をする中でたくさんの経験や発見をした。それらを踏まえて、将来働くときに大事になると感じたのは、視野を広く持つことと、

何事にも興味を持ち続けることの二つだ。この二つのことを多くの人意識すれば、革新的な商品や事業が生まれ、ただお金のやり取りをするだけでなく、人々も社会も豊かになっていくと思う。私はそんな社会を引っ張れるような大人になりたい。

